

- 1 開催日：令和4年6月15日（水）16時20分～16時35分
- 2 開催場所：プレゼンテーションルーム
- 3 議事概要：以下のとおり（●議題提出部局説明・回答、☆意見・質問）

議題1 みえデジタル戦略推進計画の改定

●横山副最高デジタル責任者兼副局長（資料1に基づいて説明）

三重県のデジタル社会の推進を図るため、三重県のめざすデジタル社会の全体像と、県が取り組む具体的な方向性を示すため、みえデジタル戦略推進計画について全面改定を行う。

背景として、令和2年6月に策定した現計画の策定以降に生じた、デジタル庁の発足やデジタル臨調の設置に始まるデジタル社会をめぐる国の動きやコロナ禍で顕在化した、行政や教育、医療のデジタル化への遅れなどに対応していく必要があること、また、美し国ビジョンみえや元気プランの策定、昨年度から設置のデジタル社会推進局において進めるみんなの思いを実現する「あったかいDX」や、県民や有識者からの意見をもとに県民の皆さんが描いた「未来の三重のありたい姿」をまとめた「デジタル社会の未来像」などをふまえ、三重県が取り組む方向性としてみえデジタル戦略推進計画を全面的に改定したい。

本県のデジタル関係の既存の計画は2つある。

令和2年6月策定の現計画は、ICTを活用した県庁改革や県民サービスの向上などの行政の取組内容が中心となっている。

各部局で進められている施策毎のDXの取組である教育、労働力不足の解消、健康づくり、防災、観光等の記載がないため、そういったものを次の計画に含めていきたい。

みえICTデータサイエンス推進構想については、民間企業が取り組むICT、IoT等の情報通信技術を活用した産業の振興、データ活用に関する記載が中心となっており、評価指標が令和4年度までということもあり、この推進構想の要素を新しい推進計画に取り込んで統合していきたい。

改定後の推進計画の骨子案について、めざす姿で「誰もが住みたい場所に住み続けられる三重県」としてデジタル社会の推進により、県民それぞれのウェルビーイングが実現されている三重県をめざし、暮らし、産業、行政の各分野におけるめざす姿を明記することで、三重県がめざす全体像を記載するとともに、取組方向において、県民生活に密接に関連する三つの分野について、それぞれ令和8年度にめざすべき姿に向けた取組を記載したい。

現在、各部局に対して照会しているDXに関する取組をもとに、暮らしのDX、

産業のDXの取組方向を記載したい。

推進体制としては、知事トップの本会議をもって充てたい。

今後のスケジュールについては、6月23日の県議会常任委員会で改定方針の説明を行い、その後、外部有識者へのヒアリングや市町等への意見照会、パブリックコメントを経て、中間案を10月の常任委員会にて説明を行い、11月の推進本部、12月の常任委員会で最終案の説明を行いたい。

なお、外部有識者等への意見照会の状況によっては、スケジュール案の見直し等も含め検討したい。

議題2 みえデジタル戦略推進計画（令和3年度における取組状況）

●横山副最高デジタル責任者兼副局長（資料2に基づいて説明）

現行のみえデジタル戦略推進計画にかかる令和3年度の実施状況の報告について、8つの個別取組のうち、主な2つの取組状況について報告する。

AI・RPA等の新たな技術の導入による業務改善の推進として、令和3年度は13業務にRPAを導入した。

13業務の合計の延べ年間作業時間について、導入前の作業時間数と導入後の作業時間数を比較すると44.8%の削減効果があった。

県情報通信基盤の整備運用について、業務効率化による生産性の向上等のため、ペーパーレス化やweb会議システム、コミュニケーションツールの導入、ネットワークのwi-fi化などとともに、デジタル社会推進局での働き方、業務の進め方をデジタルに最適化する等の改善を行ったところ、導入の効果として、デジタル改革推進課のコピー使用枚数の月平均を比較すると、対前年比約40%の削減となった。

前回のこの会議でお知らせした新たな情報基盤の全庁導入を今年度から進めている。

庁内のシステム等が大幅に刷新されるのにあわせ、各部局での業務の進め方や働き方も変革していく。

デジタル社会の推進に向けて取り組んでいくため、引き続きご理解、ご協力をお願いしたい。

●三宅デジタル社会推進局長

ただ今の説明について、意見・質問があればお願いします。

☆田中CDO

今回の計画の全面改定により、行政のDXだけではなく社会におけるDXも網羅することによって、デジタル社会形成のトップランナーとしてふさわしい計画にしていきたい。

行政のDXでは、政府が示しているデジタルを前提とする社会の共通の指針である、「デジタル原則」に沿った規制一括見直しの波が現在でも地方へ広がってくる。

また、社会におけるDXについて、デジタル田園都市国家構想への対応を進めていかなければならない。

デジタル社会の実現に向けては、県民1人1人の想いを叶えるためのDXであるという観点を忘れずにあったかいDXを引き続き推進していく必要がある。

当然のことながら、デジタル社会推進局だけでは、デジタル社会は実現できないため、各部局においては、“みんなでデジタル社会を作っていくんだ”ということで、それぞれの職員が自分ごととして取りくみ、部局横断的に協力し合いながら進められるようお願いしたい。

☆水野県土整備部長

あまり本質的な話ではないが、このデジタル戦略推進計画について、すべからくデジタルはそうだが、専門用語が分かりにくいところがある。県民向けに作るのであれば、専門用語を優しく、分かりやすいように表現していただきたい。

例えば、資料1の3ページの1、めざす姿の副題である「県民それぞれのウェルビーイングが実現されている三重県」というところで、初めからつまずいてしまう。ウェルビーイングとは何かがわからないと思う。そういったところも配慮しながら作っていただけるとありがたい。

●三宅デジタル社会推進局長

そういった点に留意しながら進めていきたい。

最後に知事の方から一言お願いしたい。

☆一見知事

DXは、人口減少が進む日本において必ずやらなければならない。

この会議にあたって3点お願いをする。

1点目。計画の改定については、世の中もどんどん変わってくるし、DXへの取り入れ方、やり方も変わってくるため、やらなくてはならない部分である。職員の負担も考えながら改定を行っていただきたいため、無理なスケジュールとにならないようご注意ください。

2点目。県民にとって、DXがどれだけ役に立つものなのかが分かるように進めていただきたい。現在かなり、行政の事務手続きのデジタル化を進めていただいているという認識を持っているため、それが目に見えるようにしていただきたい。

3点目、これも目に見える形ということのお願いであるが、職員のDXも随分進んでおり、資料などもDXの第一歩として紙ではなく電子化されつつある。電子化することによる職員の苦労はあると思うが、「DXをやることによって、良かった、こんないいことがあるんだ」というDXにおける成功体験を職員にしてもらえるよう各部局長においてはフォローを行っていただきたい。